

# 「チベット問題」を読み解く

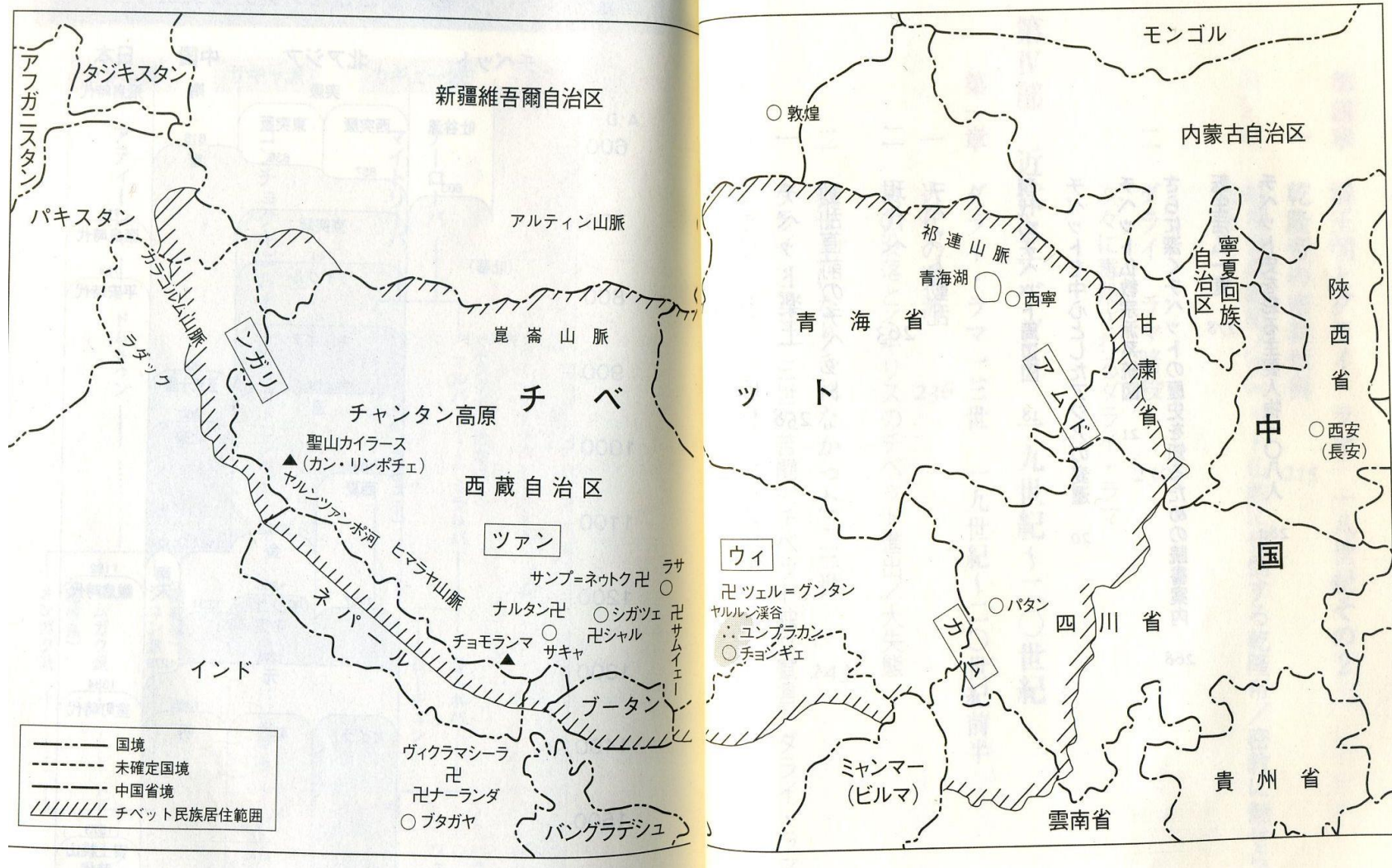
伊藤善高

# 第1章 チベットの歩み

## 第1節 チベットの基本情報

チベット → ヒマラヤ山脈北の高原  
面積 約129平方キロメートル  
人口 540万人

チベット語の使用 → 集団  
= チベット人と定義



## 第2節 仏教の導入

7世紀 チベットの統一王国 = 吐蕃

吐蕃のティソン・デツェン王

→ 仏教の導入

大乘仏教のインド仏教最高学府の大学僧

シャーントラクシタを招集

インド仏教を幅広く布教

小乗仏教の中国仏教 → 勢力拡大

794年サムイェー寺で

インド仏教と中国仏教が対決

3年間も論争が継続

ティソン・デツェン王

インド仏教の勝利宣言

チベット仏教の根源はインド仏教

### 第3節 モンゴルとの関係

1239年 チベットの統一政権の皆無  
→ モンゴルの軍事力は強大



モンゴルに無条件に降伏

1253年  
チベット仏教最高権威パクパ・ロド



モンゴル皇帝フビライ・ハン



チュ・ユン関係を結束

チュ・ユン = 施主と説法師

1260年 フビライ

チベット仏教 = 国教



パクパにチベットの政治権威授与



チベット = 独立を回復

判断

## 第4節 清王朝

1636年 清初頭のチベット

外部強国 ≠ 従属、 独立を維持

清の軍事力 > チベットの軍事力

地理的優位 = 独立を保持

ダライ・ラマ

宗教的な最高権威 + 政治的な最高権威

= ダライ・ラマ政権成立



1645年 **ダライ・ラマ5世**

**ガワン・ロサン・ギャンツォ**

**ポタラ宮造営を命令**

1653年、北京に**ダライ・ラマ5世**を招集

**清の皇帝世祖順治帝** × **ダライ・ラマ5世**

**チュ・ユン関係の結束**

**歴代ダライ・ラマとチュ・ユン関係継続**

1906年

イギリスと清、英清西藏条約の締結

1910年

四川雲南辺務大臣の趙璽豊

ラサに進撃



ダライ・ラマ13世インド亡命

## 第5節 中華民国

1911年、辛亥革命 = 中華民国が誕生

1913年 チベット

「五箇条宣言」を発表 = 独立を宣言

外交的動乱



チベット独立は保留

チベット地方政府 = 独立、中立姿勢  
を継続

## 第2章1949年～1964年のチベット

### 第1節 中華人民共和国成立

1949年10月 中華人民共和国成立

ラジオ北京

「人民解放軍 = 中国全土を解放  
チベット含有」  
と放送

チベット = 帝国主義者に侵略  
「チベット人民 = 人民解放軍を所望」  
と宣言

当時 実際チベット = 白人6人



チベットへの軍事侵略の口実

1950年10月 人民解放軍

東チベットと北チベットの侵攻



チベット軍大敗

1950年11月

国際社会、国連の支援の希望皆無



ダライ・ラマ<sub>14</sub>世

北京に代表を派遣

中国 = 直接対話決定

## 第2節 17ヶ条協定

1951年5月

チベットの代表 = 一切決定権皆無

中国側代表、合意文書を用意

合意の皆無 人民解放軍 → 侵攻続行  
軍事力で合意強制

17ヶ条協定の内容

中国軍チベット侵入許可

チベット外交権 = 中国政府委譲

など

チベット不利

1959年 ダライ・ラマ14世インド亡命後

17ヶ条協定の拒否宣言



### 第3節 反中国ゲリラ活動

1950年までチベット = 大衆暴動皆無

反中国抵抗運動 = 中国侵略 → 開始

1956年

東チベットのカムとアムド → 衝突発生

→ 3年間の抵抗運動 → デモに変化

1959年3月 ラサで大規模なデモ発生

何万人のチベット人

→ 人民解放軍に虐殺

8万人の難民産出

チベットの各地 = 中国一部に編入

# 第3章 1965年～2012年のチベット

## 第1節 チベット自治区成立

1965年、中国 → チベット自治区発足

1966年、毛沢東 → 文化大革命発生

チベット → 宗教弾圧発生

チベット寺院 6000 → 10 縮小

**1951年～1983年 死者数**

**抵抗** 43万2000人

**餓死** 34万3000人

**監獄内** 17万3000人

**処刑** 15万7000人

**拷問** 9万3000人

**自殺** 9000人

**計** 120万7000人

## 第2節 チベットのゲリラ戦停止

1971年

基本4自由の宣言 → チベット自由化

1988年

ラサ → 暴動発生

死者 600人

## 第3節 ダライ・ラマ14世の

ノーベル平和賞受賞

ダライ・ラマ14世の思想

非暴力 → チベットの自由化



1989年ノーベル平和賞受賞



リベルテ協会

プリ・ドラ・メモワール賞受賞

## 第4節 ラサでの武力鎮圧

2008年3月 ラサ → 大暴動発生  
抗議行動参加者 10,000人超



中国軍 100,000人増兵  
大規模鎮圧

218人 射殺  
1000人 消息不明  
6705人 逮捕

## 第5節 チベット僧の自殺

暴動以降 → 弾圧強化



- 2009年 アムドのキルティ僧院  
初の焼身自殺発生
- 2011年 キルティ僧院 焼身自殺発生
- 2012年 ラサのジョカン寺 2人焼身自殺発生
- 2013年1月 中国四川省  
チベット人男性1人焼身自殺発生
- 同年7月 カム地方、タウ僧院  
僧、人民解放軍衝突 → 6人負傷



# 第4章 今後の展望

## 第1節 中国の主張

チベット住民 → 農業、畜産業

チベット自治区平均所得 > 中国各省

中央政府補助の投入

# 金銭面以外の優遇点

税制上、減免税

学校教育費減免除

高校・大学優先入学

公務員試験優遇(試験の加点)

公務員の出世上の優遇

中国支援皆無

≠

チベット発展

||

中国

≠

チベット弾圧

## 第2節 チベット族の主張

中国、チベット保有理由

天然資源の宝庫

軍事的優位

チベット	=	中国の一部	○
		中国の植民地	×

### 第3節 チベットの行方

中国 → チベット経済向上

チベット人の受難 = 自由信教の皆無

チベット人 = 自由信教必要

チベット独立 最良

チベット → 軍事的対応不可



中国 + チベット = 和解